



中高生  
インターネット  
利用白書2021

Google

# 調査目的と調査結果サマリ

## 調査目的

Google はこれまで、プライバシーを保護するための各種ツールの提供、様々なインターネットリテラシーの啓蒙活動、Grow with Google を通したトレーニング提供などを通して、「インターネットの安心安全な利用」を推進するための取り組みを行ってきました。とくに現在、新型コロナウイルス感染症をきっかけに生徒のインターネットの利用方法や利用時間などが大きく変化するなか、「インターネットの安心安全な利用」への関心はさらに高まってきています。一方で、ニュース等では生徒が直面するトラブルが目を集めますが、インターネット活用のメリットは見過ごされがちです。本白書では、生徒および教員の皆さんがインターネットを通して感じているメリットとリスクの双方を調査することで、生徒のインターネット利用実態に関わる正しい理解を促すことを目的としています。

## 調査結果サマリ

### 生徒によるインターネットやアプリ利用時間

**インターネットやアプリの利用時間は、学年が上がるごとに長くなる傾向**

最も大きな変化があったのは、中学生から高校生に進級するタイミングでした。また、中学と高校ともに学年が上がるごとに利用時間が長くなることがわかりました。

### インターネットの利用により生徒が感じるメリット

**高校生になると、情報の入手だけでなく、人とのつながりに価値を感じる割合が増加**

高校生の方が中学生と比べて、普段出会えない人から情報を得たり、世界中の人に自分の考えや作品を発信するようになる機会が増え、オンライン上で他者とつながる機会が増加する様子がみられます。

### 生徒が経験しているインターネット利用によるトラブル

**中学生・高校生ともに「スマートフォン等を使う時間が長くなり日常生活に支障が出た」が最多**

インターネットの利用でメリットを感じる機会が増える一方で、生徒自らが利用時間を自主的にコントロールするのが難しい様子が伺えます。

### 生徒と教員における認識のギャップ

**教員が思う以上に、生徒はインターネットを介してニュースに関心を持ったり、将来について具体的に考えられるようになっている**

全世界とつながることができるインターネットだからこそ、社会のニュースや情報を入手しやすく、それにより将来についての自分の考えを具体化しやすくなっています。

**教員が思う以上に、生徒は SNS での不快なメッセージに触れたり、ネット詐欺にあいそうになったりした経験がある**

生徒間で流行している SNS やその使い方を教員側も把握することに加えて、ネット詐欺の回避方法などについての指導を強化する必要があるといえます。

### 学校内での勉強

**生徒が、学校での勉強に使えるとしたら便利と思うサービスは3つ**

検索サービス・YouTube などの動画サービス・予習復習が家でもできるサービスを選択する生徒が多く、情報のインプットや学習効果を高めるサービスへのニーズが高いことがわかります。

**教員は、「最新のインターネットの状況を反映した教材を利用すること」を重視**

生徒間での流行や使い方の変化が早いため、最新状況を授業内で伝えたいという意向が高いです

# 目次と調査概要

## 目次

1. 生徒のインターネット利用時間	p3 ~ p4
2. 生徒がインターネット利用で感じるメリット	p5 ~ p6
3. 生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い	p7 ~ p9
4. 生徒がインターネット利用で経験しているトラブル	p10 ~ p12
5. 生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い	p13 ~ p15
6. トラブルに対する生徒の対応状況	p16 ~ p18
7. 生徒のフィルタリング利用状況とその影響	p19 ~ p22
8. 生徒が学校の勉強で使いたいインターネットサービス	p23
9. 先生が考える学校で行うと効果があること	p24

## 調査概要

- 調査地域：日本全国
- 調査対象者およびサンプル数
  - 〔ア 中学生・高校生向けの調査〕
    - Google が提供する「Google オンラインセーフティカリキュラム」の授業を受講した中学生および高校生
    - 授業内で行うアンケートに回答した、中学生 5,835 名・高校生 9,722 名
  - 〔イ 中学校・高校の教員向けの調査〕
    - Google が提供する「Google オンラインセーフティカリキュラム」の授業を活用した中学校および高校の教員
    - 授業内で行うアンケートに回答した、中学校教員 50 名・高校教員 69 名
- 調査方法
  - 〔ア 中学生・高校生向けの調査〕
    - WEB 調査票 および 郵送回収法を併用
  - 〔イ 中学校・高校の教員向けの調査〕
    - WEB 調査票 および 郵送回収法を併用
- 調査期間：2020 年 4 月 ~ 2020 年 12 月末日
- 調査主体：株式会社 ARROWS

Google は 2018 年から、日本最大級の教員向けプラットフォームを運営する株式会社 ARROWS の協力のもと、「インターネットリテラシー」をテーマにした中学生・高校生向け授業コンテンツの開発・提供を行ってきました。本白書は、当該コンテンツを受講した生徒・教員へのアンケート結果をもとに作成しています。生徒自身だけでなく教員にもアンケートを行うことで、教員が思う以上に（その逆も含む）生徒が感じているメリットや経験しているトラブルについても調査、発表しています。

# 生徒のインターネット利用時間

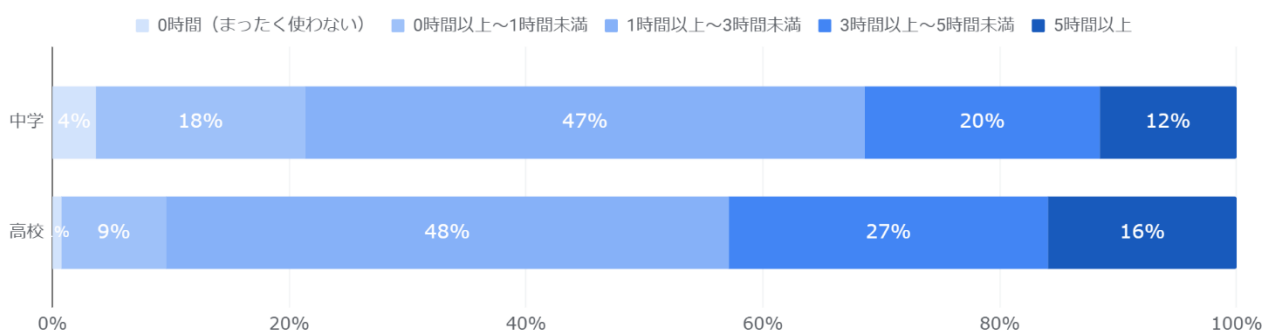
中学から高校になると、インターネットおよびアプリを利用する時間は大きく増加。中学1年生から2年生になる際の利用時間はあまり変わらないものの、中学3年生になる段階でインターネットおよびアプリを長く利用する層は微増し、中学3年生から高校1年生になる時に一番大きく利用時間が増加する。高校生は、1日3時間以上利用する層が学年ごとに微増するが、高校2年生から3年に上がる際に、インターネット利用時間で大きな差異はない。男女差は、学年の違いほど利用時間に大きな影響をおよぼしていないが、男子生徒の方が3時間以上利用する層が若干多い。

## 高校生になると、インターネットを3時間以上利用する層が増加する

中学生から高校生になると、インターネットを1時間未満使用する生徒は11pt減少し全体の10%になり、3時間以上使用する生徒が11pt増加し、全体の43%におよぶ。

高校生になると、まったくインターネットを使わない生徒は4%から1%に減少。利用時間が1時間未満の層が18%から9%に半減する。その一方で、1日3時間以上5時間未満インターネットを使用する生徒は、高校生になると7pt増加して27%になり、5時間以上使用する生徒は4pt増加して16%になる。

インターネットやアプリを平日（学校がある日）にどれくらい使用しますか？

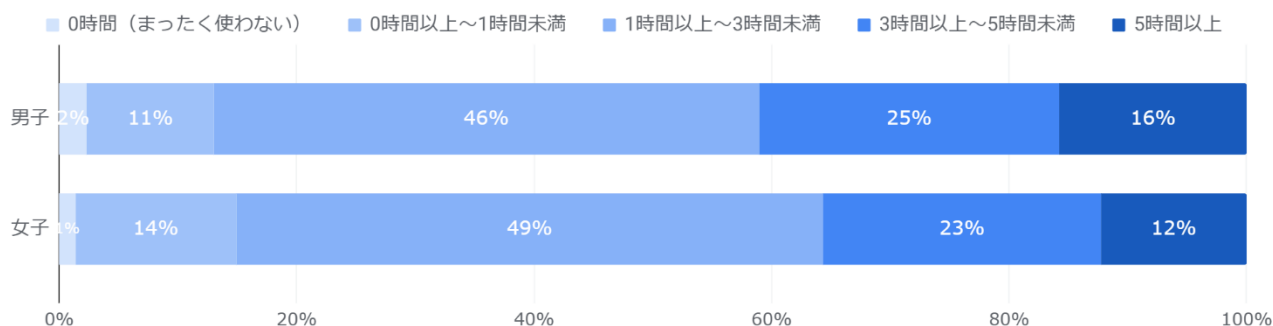


# 生徒のインターネット利用時間

## 性別による利用時間の差は軽微である

インターネットの利用時間は、性別によって特筆すべき差はない。男子生徒の方が若干利用時間が長い傾向にあり、3時間以上～5時間未満の利用は女子生徒より2pt多く、5時間以上使用する男子生徒は、女子生徒に比べ4pt多い。

インターネットやアプリを平日（学校がある日）にどれくらい使用しますか？

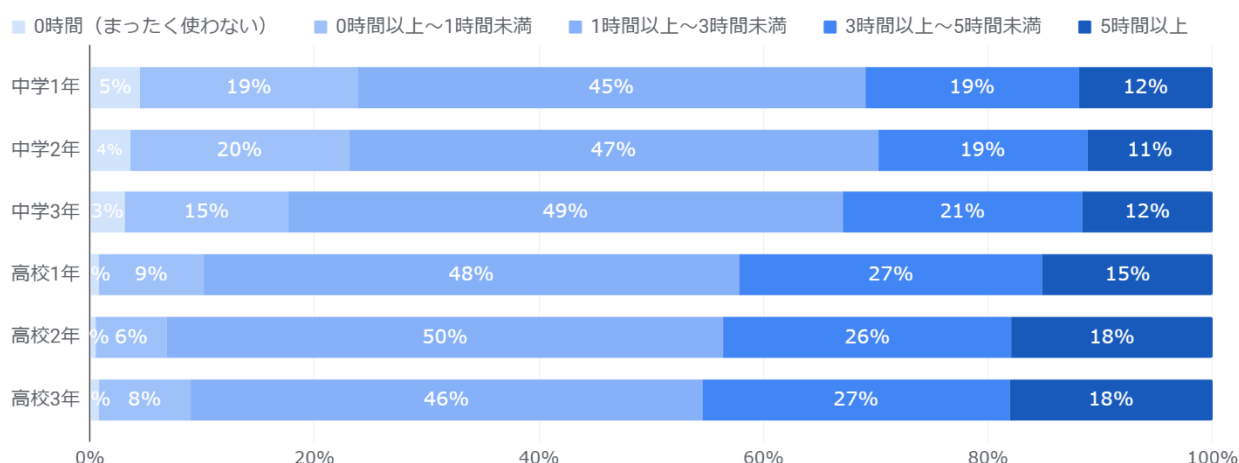


## 中学から高校に進学するタイミングで、利用時間が増加する

中学生は、1～2年生で利用時間に変わりはないが、中学3年生になると利用時間が長い層が微増する。高校生は、1日3時間以上利用する層が学年ごとに微増するが、高校2～3年生で大きな差異はない。

中学2年生から中学3年生になると、1日の使用時間が0時間以上～1時間未満の生徒が20%から5pt減る。また、3時間以上～5時間未満の利用者は1年生から順に19%、19%、21%と微増する。高校生になると、まったく使わない層は1%に減少し、高校3年生までその値は変わらない。0時間以上～1時間未満の生徒は中学3年の15%からさらに6pt減らし9%になり、進級後もその値は減少。その一方で、3時間以上～5時間未満の生徒は中学3年の21%から6pt増加し、高校1年生で27%となり、それ以後大きな変化はない。また、5時間以上インターネットを使用する生徒は、中学3年生で12%だったが高校1年生で15%、高校2年生以降で18%に推移する。

インターネットやアプリを平日（学校がある日）にどれくらい使用しますか？



# 生徒がインターネット利用で感じるメリット

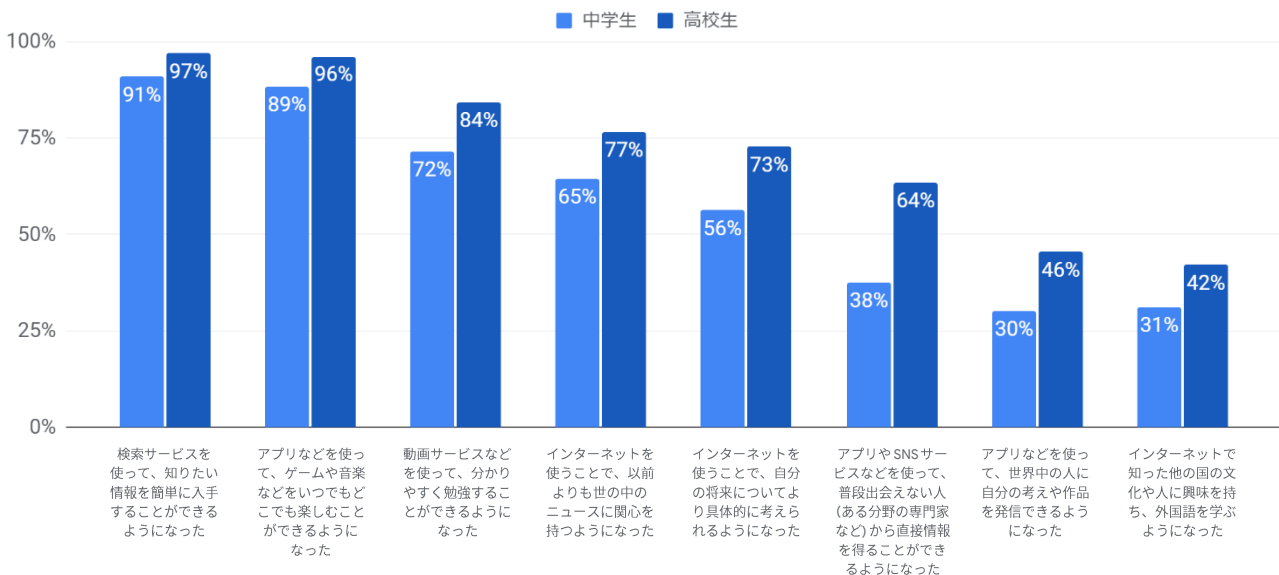
中学生・高校生ともに、半数以上の生徒が感じている、インターネットを利用することのメリットが多くある。特に、検索サービス、ゲームや音楽アプリ、動画サービスは多くの生徒が利用している。また、高校生の方が中学生と比べて、普段出会えない人から情報を得たり、世界中の人に自分の考えや作品を発信するようになる機会が増え、オンライン上で他者とつながる機会が増加しているといえる。

## 検索等で情報を入手するだけでなく、高校生になると人とつながる経験も増える

インターネットでできるようになったこととして、中学生・高校生ともに「検索サービスを使って知りたい情報を簡単に入手する」を選択している生徒が最も多く、中学生は**91%**、高校生は**97%**が経験している。次いで、中学生の**89%**、高校生の**96%**が「アプリなどを使ってゲームや音楽などを楽しむようになった」としている。3番目に、「動画サービスを使ってわかりやすく効率的に勉強する」ことを選択した生徒が、中学生**72%**、高校生**84%**の割合で存在する。

逆に、中学生と高校生とで、インターネットを通して経験できているかに差がでるものもある。「アプリやSNSサービスなどを使って、普段出会えない人（ある分野の専門家など）から直接情報を得ることができるようになった」については、中学から高校にかけての上昇幅が一番大きく**26pt**である。次に上昇幅が大きいのは、「インターネットを使うことで、自分の将来についてより具体的に考えられるようになった」で、**17pt**増加。次に、「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信できるようになった」は、高校生になると中学生と比較して**15pt**増加している。そのため、高校生になると、インターネットやアプリは欲しい情報やコンテンツを入手するツールとしての側面以外に、人とつながることの出来るツールとしての役割が増しているといえる。

インターネットの活用について、あなたが経験したことのあるものをすべて選んでください

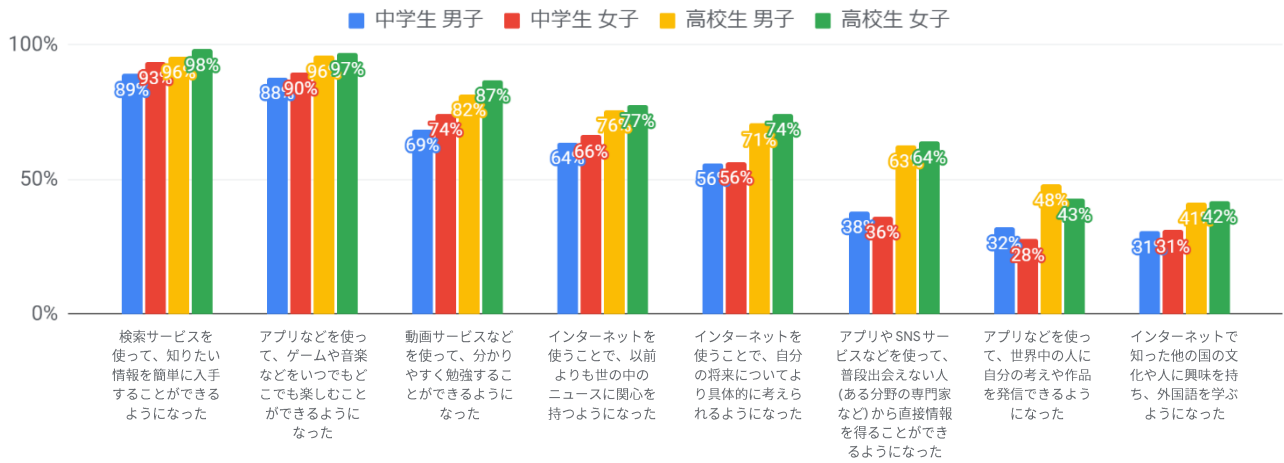


# 生徒がインターネット利用で感じるメリット

## 性別により実感するインターネット利用のメリットの差は軽微

中学生・高校生のそれぞれの世代内で性別により比較をすると、差はわずかであるが、世代を問わず、8項目中6項目において女子生徒の方が、男子生徒と比較してインターネットによって可能になったと感じる割合がわずかに高い。逆の結果が出ているのは2項目あり、「アプリやSNSサービスなどを使って、普段出会えない人（ある分野の専門家など）から直接情報を得ることができるようになった」「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信できるようになった」の2つ。オンライン上で知らない人つながって情報を得たり、発信することを経験できているのは、男子生徒の方がわずかに多いといえる。

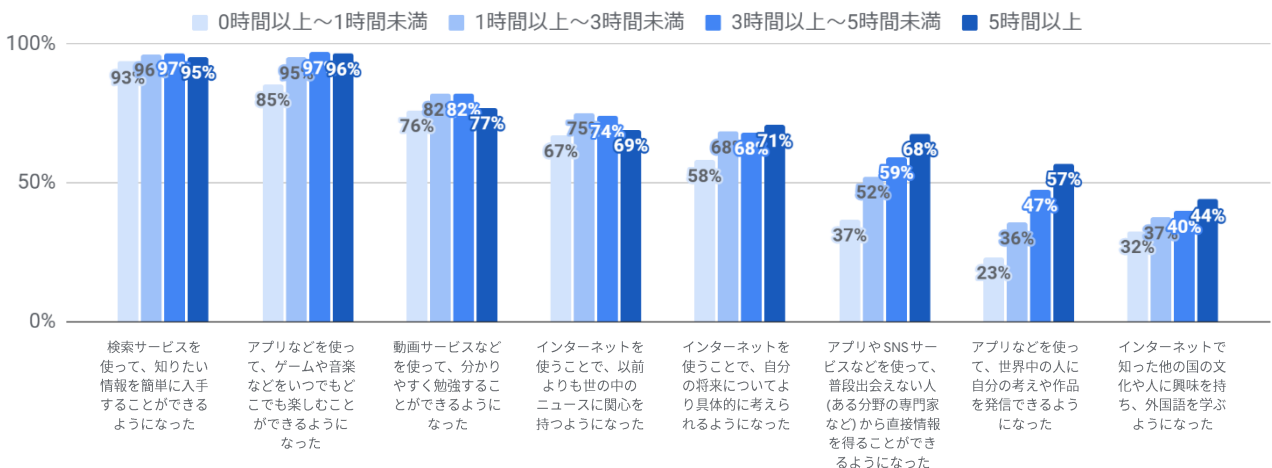
インターネットの活用について、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください



## インターネットの利用時間が長い生徒の方が、メリットを感じやすい傾向にある

特に利用時間の長さが大きく影響するものは次の2種類である。いずれも「利用時間が0時間以上～1時間未満」と「5時間以上」の生徒を比較した際に、「アプリやSNSサービスなどを使って、普段出会えない人（ある分野の専門家など）から直接情報を得ることができるようになった」は31pt増加し、「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信できるようになった」は34pt増加している。

インターネットの活用について、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください



# 生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い

最も多くの生徒が実感できていると教員が思っているものは、「ゲームや音楽をいつでもどこでも楽しめる」である。逆に、あまり実感できていないと思っているものは、「他の国の文化や人に興味を持ち、外国語を学ぶようになった」である。

また、インターネットで経験できていると思うこととしてあげる割合について、教員と生徒で最も大きな開きがあるものは、「ニュースへの関心の増加」であり、教員が思うよりも生徒は、インターネットを利用することでニュースへの関心を高めていることがわかる。

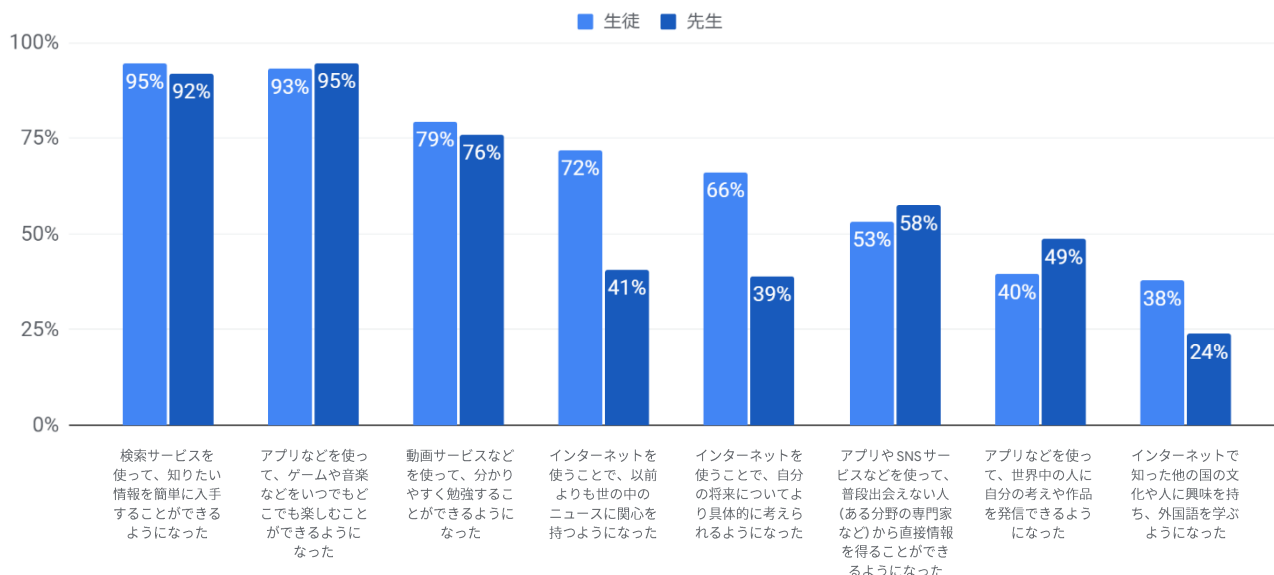
## 教員が思っている以上に、生徒はニュースに関心を持ったり、将来の具体化に役立っている

中学・高校の教員の回答結果を合計すると、「検索サービスによる情報収集」と「ゲームや音楽をいつでもどこでも楽しめる」という点について、生徒ができるようになったと考える教員が90%以上であった。だが、「インターネットで知った他の国の文化や人に興味を持ち、外国語を学ぶようになった」は24%、「インターネットを使うことで、自分の将来についてより具体的に考えられるようになった」は39%、「インターネットを使うことで、以前よりも世の中のニュースに関心を持つようになった」は41%と、これらの点について、生徒が経験できていると思う教員は比較的少なかった。

生徒の方が教員よりインターネットによって「できるようになった」と感じているものは2つ。「以前よりも世の中のニュースに関心を持つようになった」が31pt差、「自分の将来についてより具体的に考えられるようになった」は27pt差であった。教員が思っているよりも、生徒はインターネットを通してニュースへの関心を持ったり、将来に関する情報を得たりしている。反対に、教員が思うほど生徒が経験できていないものは、「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信」することで、経験できていると答えた割合は、教員よりも生徒が9pt低かった。

生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い

インターネットについて  
生徒 | 自分が経験したこと 教員 | 子どもが実感していると思うこと



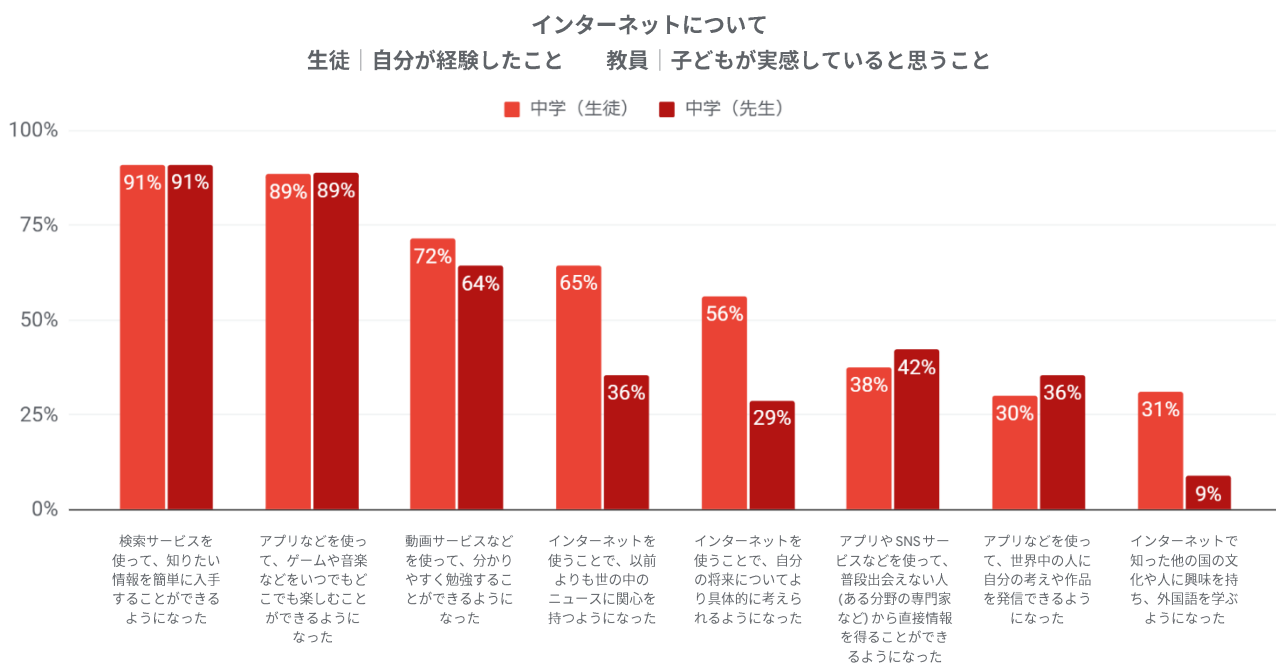
生徒:「インターネットの活用について、あなたが経験したことのあるものをすべて選んでください」・教員:「子どもたちが実際にインターネットやアプリを通して実感していると思うかどうかをお選びください」という問いに対して、「ほとんどの生徒が実感していると思う」「半分以上の生徒が実感していると思う」のいずれかを選択した教員の割合



# 生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い

## 中学生は、教員が思っている以上にニュースに関心を持つようになっている

中学の教員と生徒の認識で最も開きがあるのは、「ニュースへ関心の増加」であった。中学の教員の認識以上に、生徒が経験できているものは3点（20pt以上の差があるもの）ある。「インターネットで知った他の国の文化や人に興味を持ち、外国語を学ぶようになった」が22pt差、「インターネットを使うことで、以前よりも世の中のニュースに関心を持つようになった」が29pt差。「インターネットを使うことで、自分の将来についてより具体的に考えられるようになった」が、27pt差になっている。ただし、上記以外においては、教員と生徒の間で大きな差がある点は見られなかった。

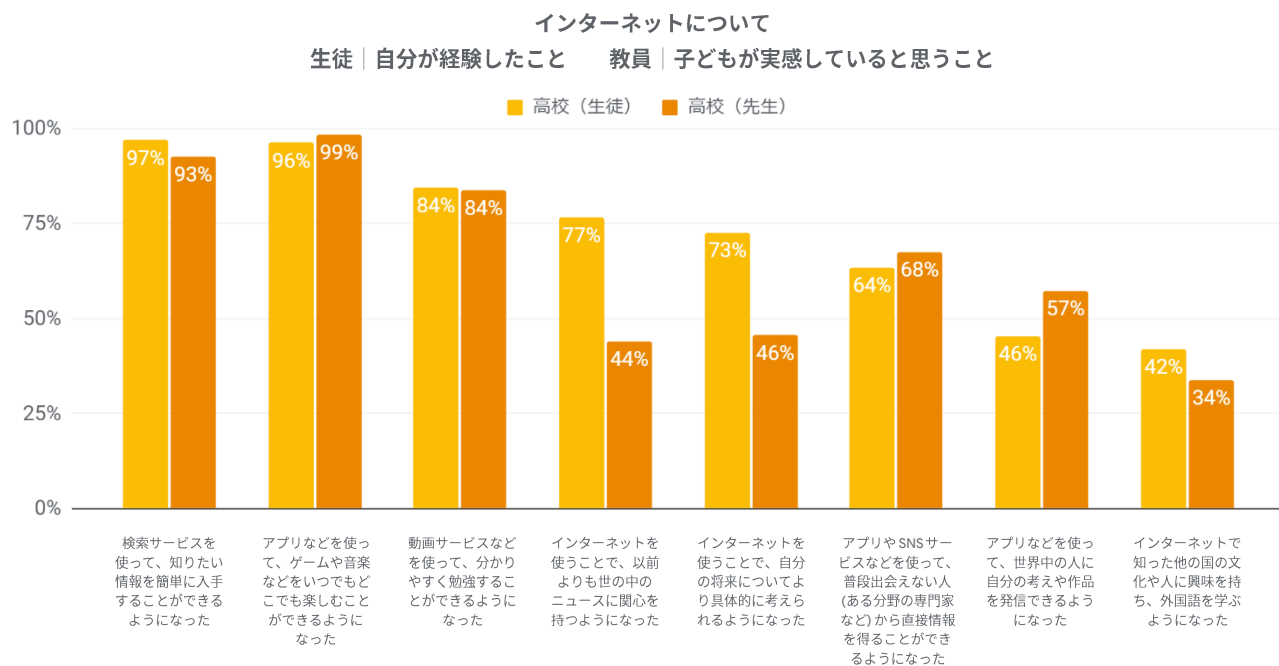


生徒：中学生1～3年生かつ「インターネットの活用について、あなたが経験したことのあるものをすべて選んでください」で「あてはまる」を選択した割合・中学校の教員「子どもたちが実際にインターネットやアプリを通して実感していると思うかどうかをお選びください」という問いに対して、「ほとんどの生徒が実感していると思う」「半分以上の生徒が実感していると思う」のいずれかを選択した教員の割合

# 生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い

## 高校生は、教員が思っている以上に将来の具体化ができるようになっている

高校の教員と生徒の認識で最も開きがあるのは「将来の具体化」である。教員の認識以上に、生徒が経験できているものは2点（20pt以上の差があるもの）ある。「インターネットを使うことで、以前よりも世の中のニュースに関心を持つようになった」が23pt差と、「インターネットを使うことで、自分の将来についてより具体的に考えられるようになった」の27pt差である。一方で、教員の認識ほどに生徒が経験できていないのは「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信できるようになった」の1点のみで、12ptの差がある。



生徒: 高校1~3年生かつ「インターネットの活用について、あなたが経験したことのあるものをすべて選んでください」で「あてはまる」を選択した割合・高校の教員「子どもたちが実際にインターネットやアプリを通して実感していると思うかどうかをお選びください」という問いに対して、「ほとんどの生徒が実感していると思う」「半分以上の生徒が実感していると思う」のいずれかを選択した教員の割合

生徒が感じているメリットに関する教員と生徒の認識の違い

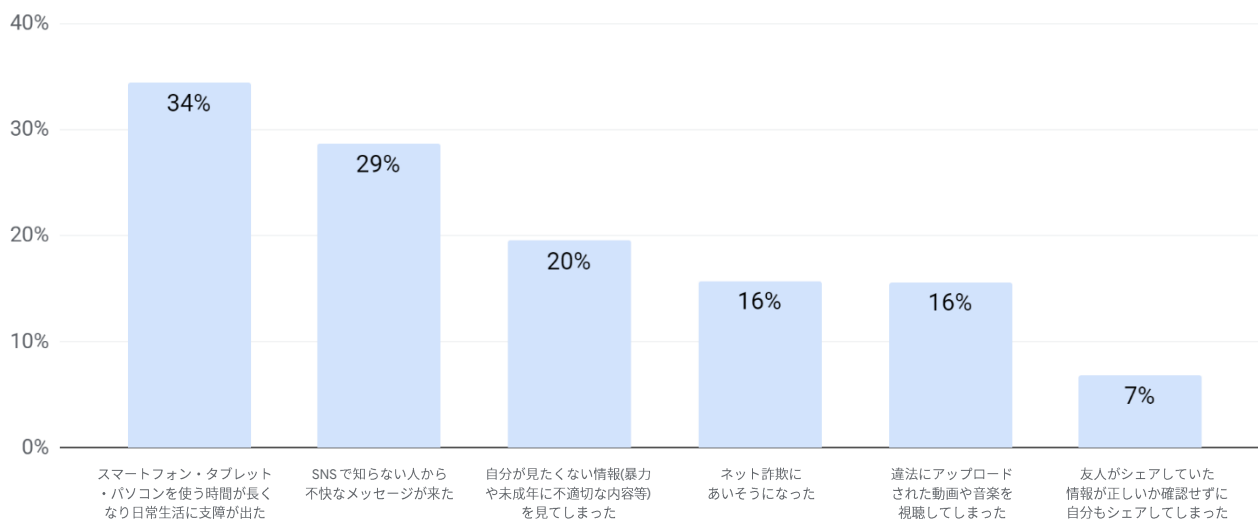
# 生徒がインターネット利用で経験しているトラブル

中高生の25%以上が、「利用時間が長くなることによる日常生活への支障が出る」ことと、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来る」ことを経験している。中学生から高校生にかけて、学年が上がるごとに、各トラブルの経験率は全体的に増加していく傾向がある。特に、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来た」が顕著に増加。性別で比較してみると、女子の方が、男子と比べて全体的にトラブルを経験しやすい傾向にある。

## 中高生の25%以上が、「利用時間が長くなることによる日常生活への支障」・「SNSによる知らない人からのメッセージ」を経験している

生徒のうち25%以上が経験しているものが6項目中2項目ある。「スマートフォン・タブレット・パソコンを使う時間が長くなり日常生活に支障が出た」は34%の生徒が、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来た」は29%の生徒が経験している。最も少ない割合のものは、「友人がシェアしていた情報が正しいか確認せずに、自分もシェアしてしまった」の7%であった。

以下のインターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください

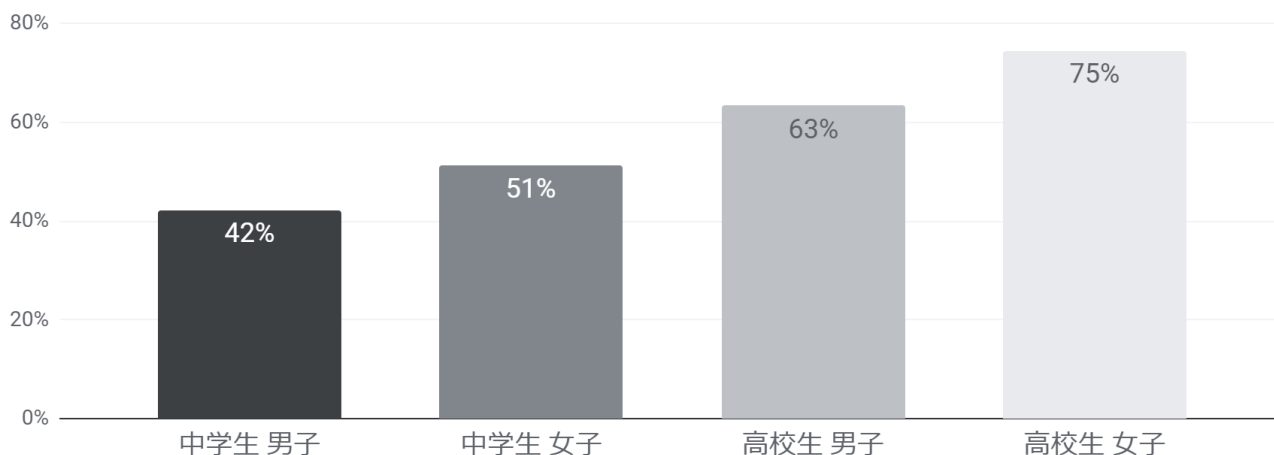


# 生徒がインターネット利用で経験しているトラブル

## 男子よりも女子、中学生よりも高校生の方が、トラブル経験率が高い

「インターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」という質問に対し、何かしらのトラブルを経験したことがある生徒は、中学生男子、中学生女子、高校生男子、高校生女子の順で多い。インターネットに関するトラブルは、男子よりも女子、中学生よりも高校生の方が経験する割合が高い。

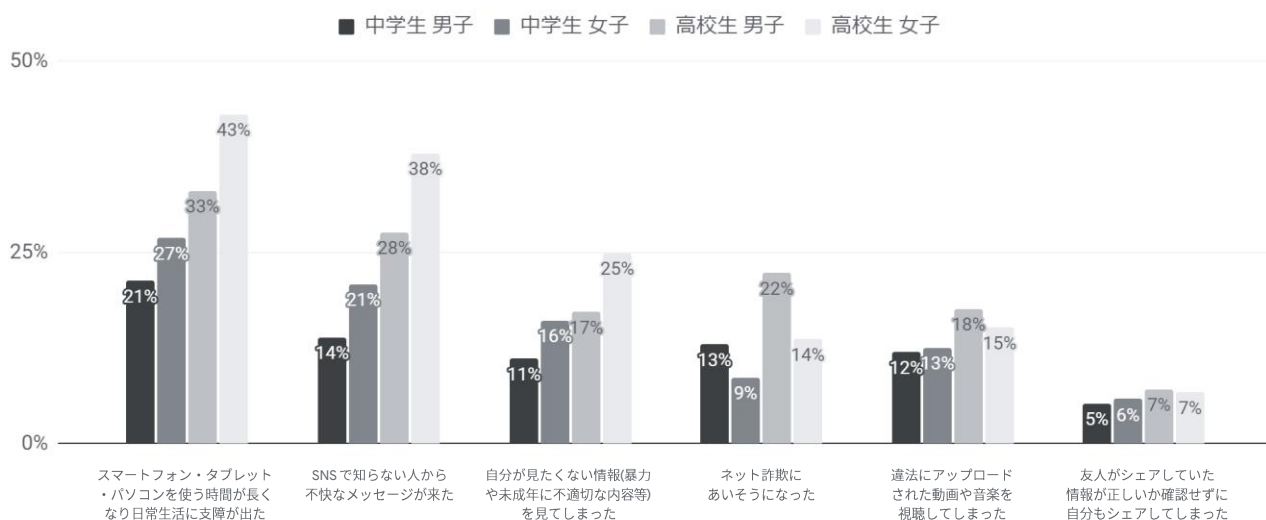
インターネットで何かしらのトラブルを経験したことがある生徒の割合（中高別×性別）



「インターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」で、「あてはまるものはない」以外の何かしらを選択した人の率

トラブルの内容について見ていくと、6項目中4項目において、中学生・高校生ともに女子の方がトラブルを経験しやすいことがわかった。男女ともに最も多くの生徒が経験するトラブルとしては、「スマートフォン等を使う時間が長くなり日常生活に支障が出た」である。性別ごとにみると、中学生・高校生ともに、女子生徒は「SNSで知らない人から不快なメッセージ」を受け取るトラブルを経験する割合が、男子生徒より1.5倍高くなっている。一方、男子生徒が、女子生徒に比べて経験しやすいトラブルは、「ネット詐欺にあいそうになった」である。

【項目別】インターネットで何かしらのトラブルを経験したことがある生徒の割合（中高別×性別）

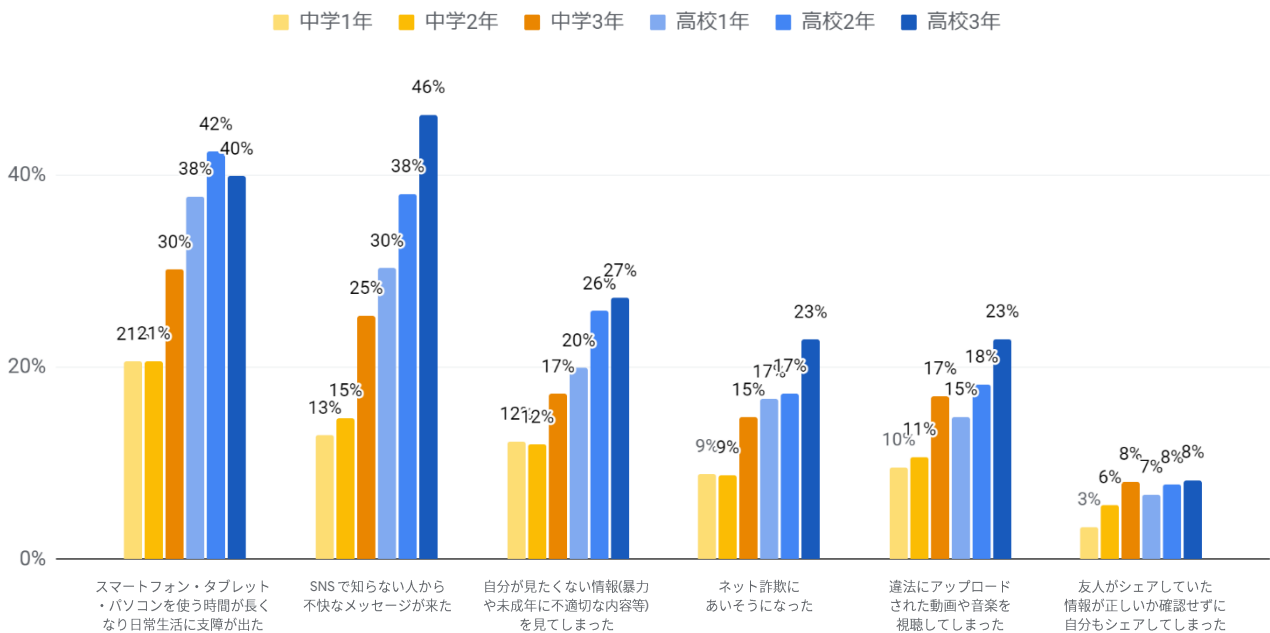


# 生徒がインターネット利用で経験しているトラブル

学年が上がるごとに、各トラブルの経験率は全体的に増加。特に、「SNSで知らない人からメッセージが来た」が顕著に増加している。

学年が上がるごとにそれぞれのトラブルを経験したことがある割合は増加する。中学1年生と高校3年生を比較した際の割合の増加が最も顕著なのは、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来た」であり、33pt増加している。一方、「友人がシェアしていた情報が正しいか確認せずに、自分もシェアしてしまった」はトラブル経験割合の増加幅が最も小さく、中学1年生と高校3年生とで5ptの増加幅。

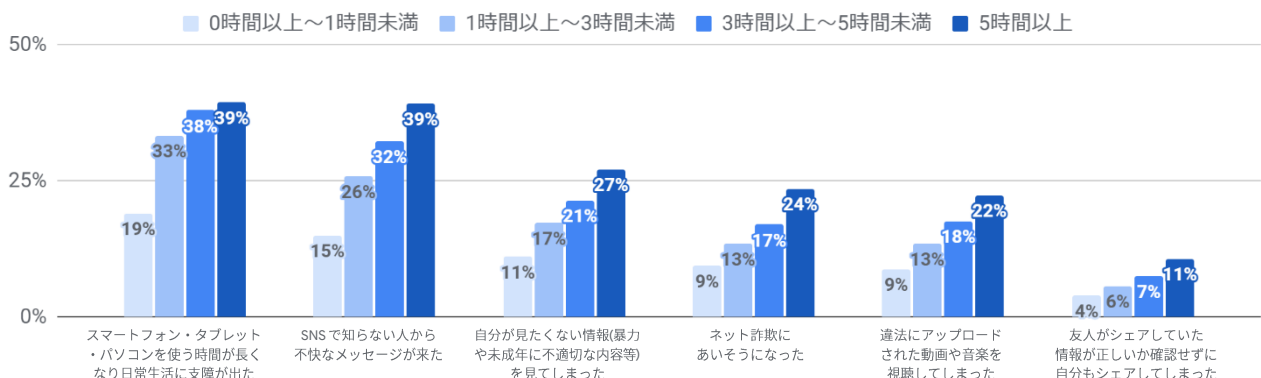
【項目別】インターネットで何かしらのトラブルを経験したことがある生徒の割合（学年別）



## インターネットの利用時間が長い生徒の方が、トラブルを経験しやすい傾向にある

特に利用時間の長さが大きく影響するものは次の2種類である。いずれも「利用時間が0時間以上～1時間未満」と「5時間以上」の生徒を比較した際に、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来た」は24pt増加し、「スマートフォン・タブレット・パソコンを使う時間が長くなり日常生活に支障が出た」は20pt増加している。

インターネットで何かしらのトラブルを経験したことがある生徒の割合（利用時間別）



# 生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い

教員が思う以上に、生徒が多く経験をしているトラブルは6種類中4種類。生徒が経験している割合が教員の想像よりも大きく乖離があるものは、「SNSで知らない人から不快なメッセージが来る」と「ネット詐欺にあいそうになる」の2つ。中学校においては、教員が思うよりも中学生が実際に経験しているトラブルの種類は少ないものの、高校生になると教員が思う以上に、生徒が様々な種類のトラブルを経験している。

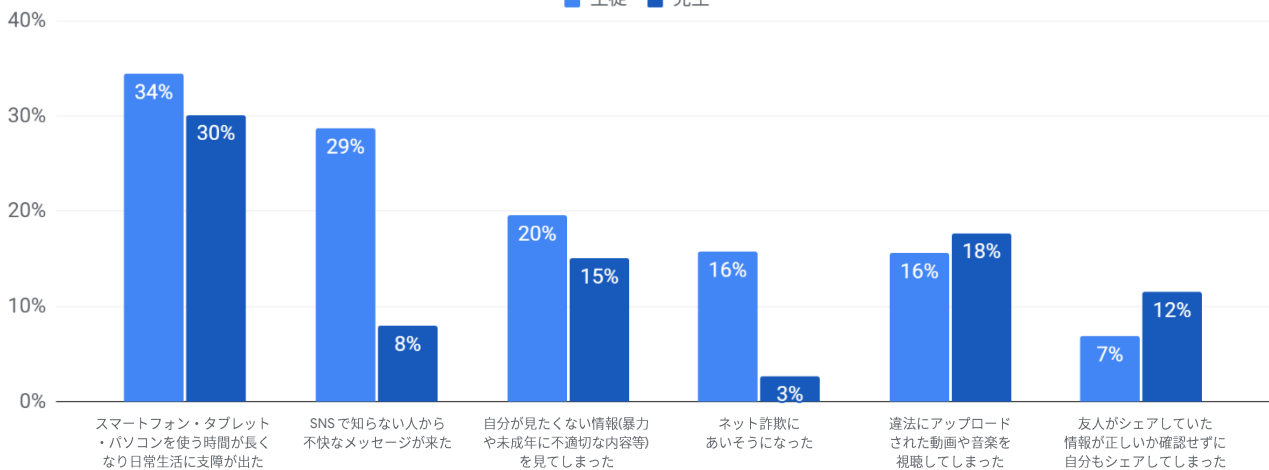
## 教員が思う以上に、子どもたちは「SNS上で知らない人から不快なメッセージが来る」・「ネット詐欺にあいそうになる」経験をしている

最も多くの生徒が経験するトラブルは、「スマホなどを利用する時間が長くなり日常生活に支障が出た」だが、教員も同様に考えており、認識に齟齬はない。だが、「SNS上で知らない人から不快なメッセージ」を受け取ったり、「ネット詐欺にあいそうになった」生徒は、実際経験している生徒が多数いるにも関わらず、教員は頻繁におこるトラブルではないと考えている。

教員から見て、生徒が最も多く経験していると思うトラブルの上位2位は、「スマートフォン・タブレット・パソコンを利用する時間が長くなり、日常生活に支障が出る」の30%、次に「違法にアップロードされた動画や音楽を視聴してしまった」の18%だった。上記のトラブルはそれぞれ生徒の34%、生徒の16%が実際に経験しており、教員と生徒の認識に大きな乖離はなかった。

一方、教員と生徒のあいだで認識度合いにギャップがある項目もいくつかある。教員は「SNS上で知らない人から不快なメッセージが来た」というトラブルにあった生徒は8%程度だろうと考えているが、実際は21pt高い29%の生徒が経験している。また、「ネット詐欺にあいそうになった」生徒がいると思う教員は3%だが、実際は16%の生徒が経験しており、認識に差があることがわかった。

インターネットのトラブルについて  
生徒 | 自分が経験したこと    教員 | 子どもが実感していると思うこと  
■ 生徒 ■ 先生



生徒:「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」 ・ 教員:「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、どれくらいの生徒が経験しているかを選んでください」という質問に対して、「ほとんどの生徒が経験していると思う」の数値

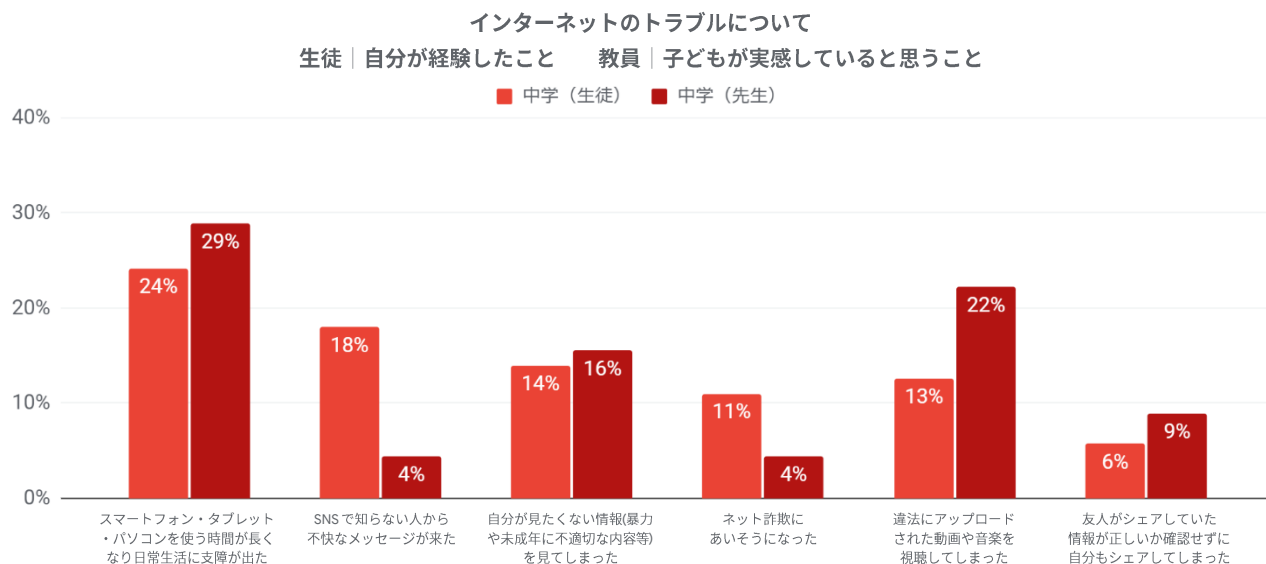
# 生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い

## 教員が思うより、中学生が実際に経験しているトラブルの種類は少ない

中学校では、教員が思う以上に生徒が経験しているトラブルは、6種類中2種類のみ。「SNS上で知らない人から不快なメッセージが来た」は実際18%の生徒が経験しているが、4%の教員のみがこのようなトラブルを生徒が経験していると考えており、14ptの差がある。次に認識の差が大きいのが、「ネット詐欺にあいそうになった」で、中学の教員のうち4%のみがこのトラブルを生徒が経験していると考えているが、生徒が実際経験している数値と比べ9ptの差がある。

教員からみて、最も多くの中学生が経験していると感じているのは「スマートフォン・タブレット・パソコンを利用する時間が長くなり、日常生活に支障が出た」であり、生徒の認識との差も少なく5ptのみである。一方、教員が思っているほど実際に生徒が経験していないトラブルの中で差が顕著なものは「違法にアップロードされた動画や音楽を視聴してしまった」で、教員の数値が生徒より9pt高い。

生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い



生徒:「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」 ・ 教員:「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、どれくらいの生徒が経験していると思うかを選んでください」という質問に対して、「ほとんどの生徒が経験していると思う」の数値

# 生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い

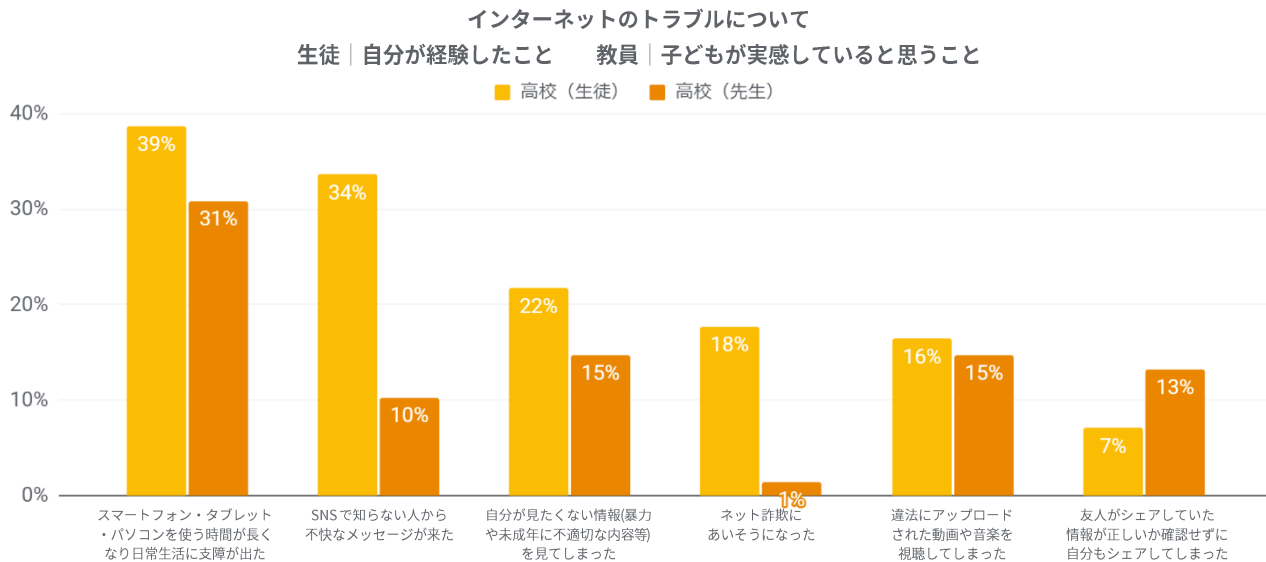
## 教員が思う以上に、高校生は様々な種類のトラブルを経験している

高校では、教員が思う以上に生徒が経験しているトラブルは6種類中5種類と、中学校と比較して多い。最も教員と生徒の間に認識の乖離があるのは「SNS上で知らない人から不快なメッセージが来た」で、実際34%の生徒が経験しているが、そう認識している教員の割合は10%と低い。次に大きく乖離しているのは、「ネット詐欺にあいそうになった」で、高校の教員のうち1%のみがこのトラブルを生徒が経験していると考えている。

教員からみて、最も多くの高校生が経験していると感じているのは「スマートフォン・タブレット・パソコンを利用する時間が長くなり、日常生活に支障が出た」である。また、教員が思っているよりも多くの高校生がトラブルに合っている。特に、「SNS上で知らない人から不快なメッセージ」を受け取る生徒は34%と比較的多いが、そう認識している教員の割合は10%と低い。反対に、「友人がシェアしていた情報が正しいか確認せずに、自分もシェアしてしまった」経験がある高校生は教員が思うよりも少ない。

反面、教員が思っているほど実際に生徒が経験していないトラブルは、「友人がシェアしていた情報が正しいか確認せずに、自分もシェアしてしまった」のみで、教員の数値が生徒より6pt高い。

生徒が経験しているトラブルに関する教員と生徒の認識の違い



生徒: 「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」 ・ 教員: 「以下のインターネットにおけるトラブルの中から、どれくらいの生徒が経験していると思うかを選んでください」という質問に対して、「ほとんどの生徒が経験していると思う」の数値



# トラブルに対する生徒の対応状況

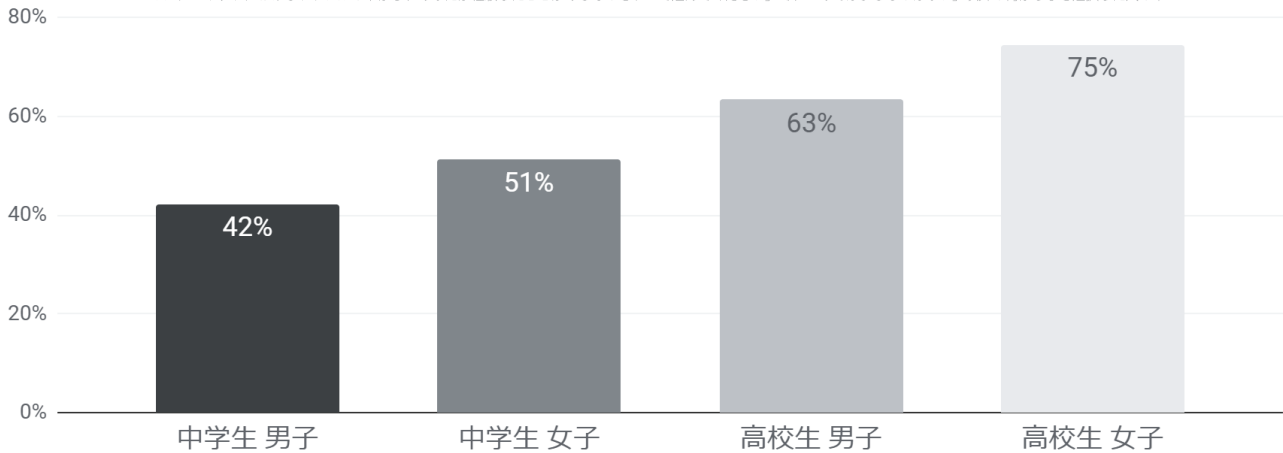
## トラブルを経験したとしても、解決のために行動を起こしたことがある生徒は半分以下 女子よりも男子の方が、行動を起こさない傾向が高い

「インターネット上でのトラブルの経験」がある生徒は校種・性別を問わず40%以上いるが、そのうち「誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何か行動をしたことがある」生徒はいずれの区分においても半数を下回っている。

「インターネット上でのトラブルの経験」がある生徒のうち、「インターネット上でトラブルにあったとき、誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何か行動をしたことがありますか？」という質問で「はい」と回答した生徒は、女子の方が「行動を起こしたことがある」割合は高く、世代別に見てみると、中学校では10pt、高校では7pt高い。

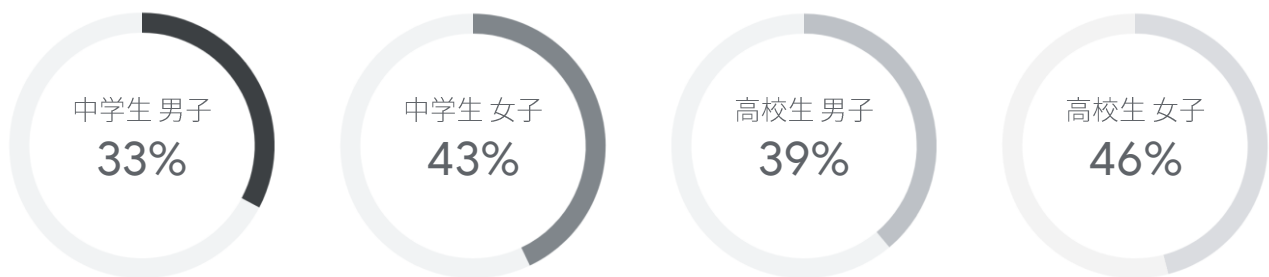
インターネットで何かしらのトラブルを経験したことがある生徒の割合（中高別×性別）

「インターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください」で、「あてはまるものはない」以外の何かしらを選択した人の率



誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何か行動をしたことがある生徒の割合

何かしらのトラブル経験があると回答した人のうち、「誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何か行動をしたことがありますか？」で「はい」と回答した人の率

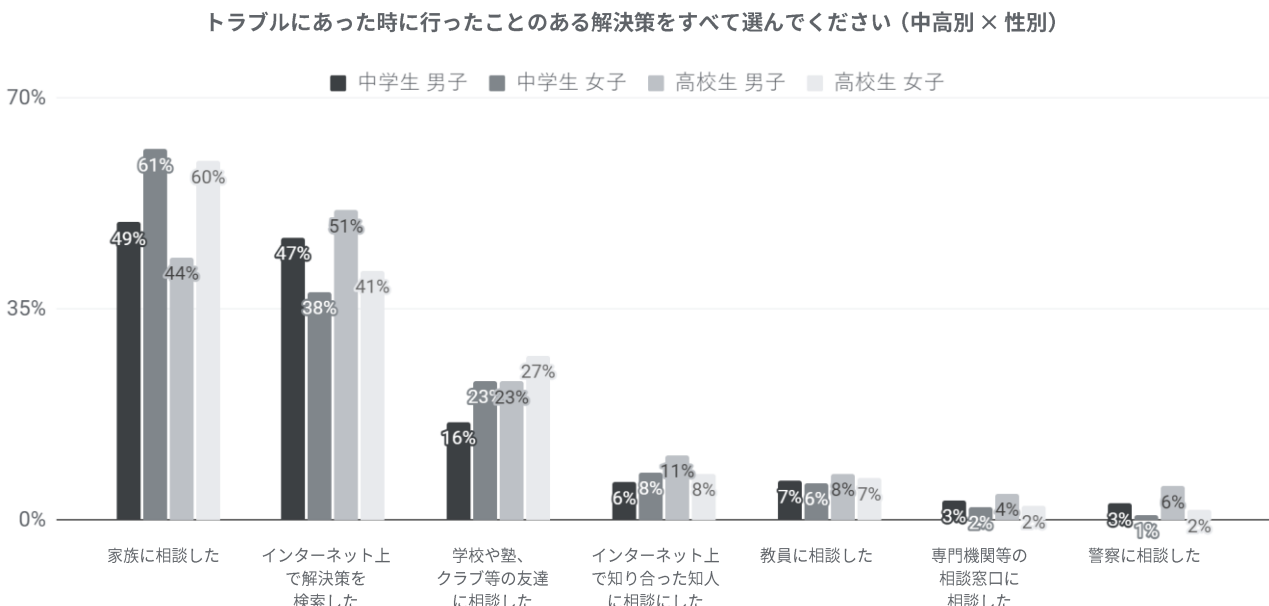
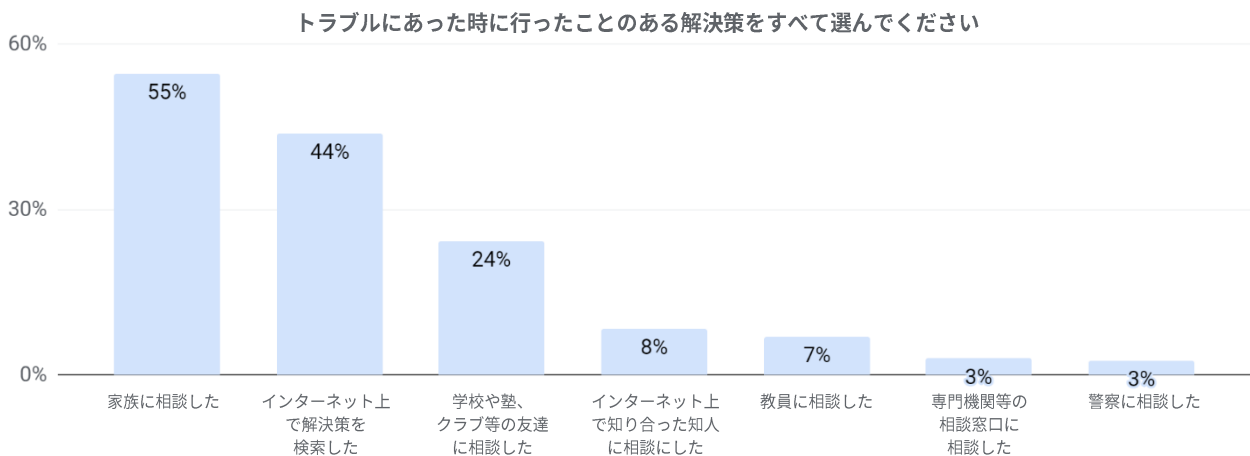


# トラブルに対する生徒の対応状況

「インターネット上でトラブルにあったとき、誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何か行動をしたことがありますか？」に「はい」と回答した人に、具体的にどのような行動を行ったのかを調査した。校種・性別を問わず、もっとも多かった行動は「家族への相談」であり、次いで「インターネット上での解決策の検索」になっている。

## 校種・性別を問わず、「家族に相談」する生徒が多い

男子・女子ともに、中学校と高校を比較したところ、トラブルを経験した際の解決方法の順位にあまり変化はない。ただし、男子と女子とで顕著な差が出ているのが、「家族への相談」と「インターネット上での検索」である。「家族への相談」を選んだ割合が、女子のほうが中学生では12pt、高校生では16pt多い。一方、「インターネット上での解決策の検索」を選んだ割合は、男子のほうが中学生では9pt、高校生では10pt高い。

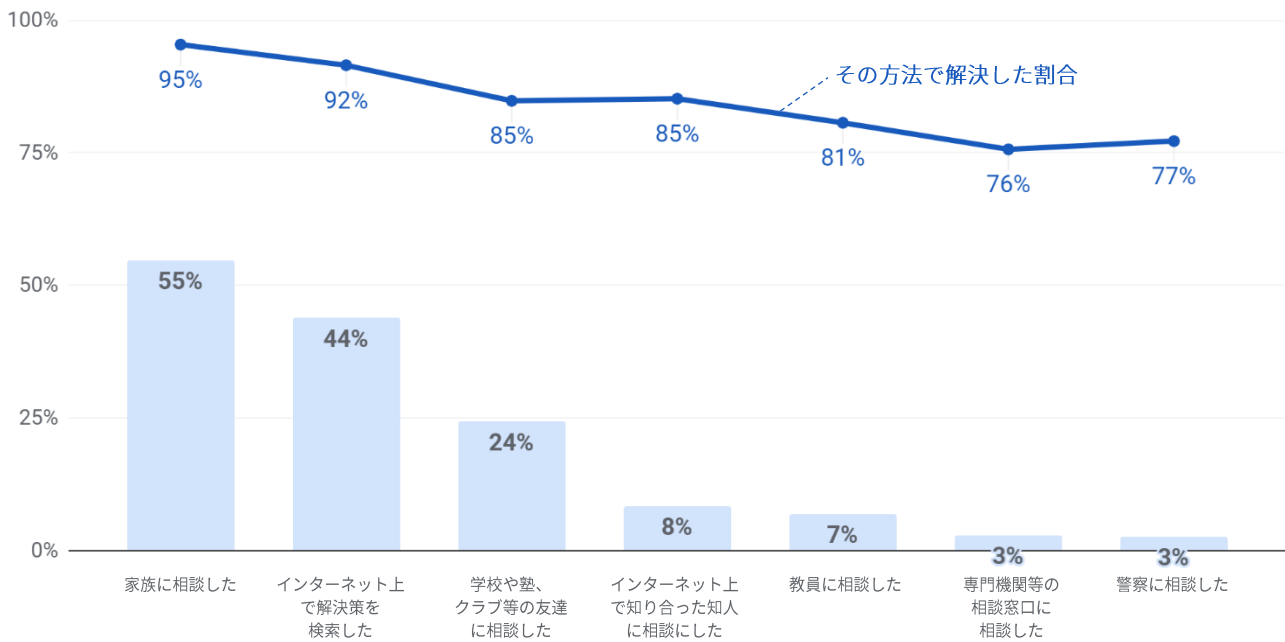


# トラブルに対する生徒の対応状況

## 「家族への相談」と「インターネット上での解決策の検索」の解決率が90%以上

「家族に相談した」と「インターネット上で解決策を検索した」の2つの方法が、「解決方法として選択した割合」ならびに「解決率」がともに突出して高い。「家族に相談した」を選択した割合は55%であり、95%の解決率となっている。「インターネット上で解決策を検索した」を選択した割合は44%であり、92%の解決率だった。

トラブルにあった時に行ったことのある解決策とその解決率



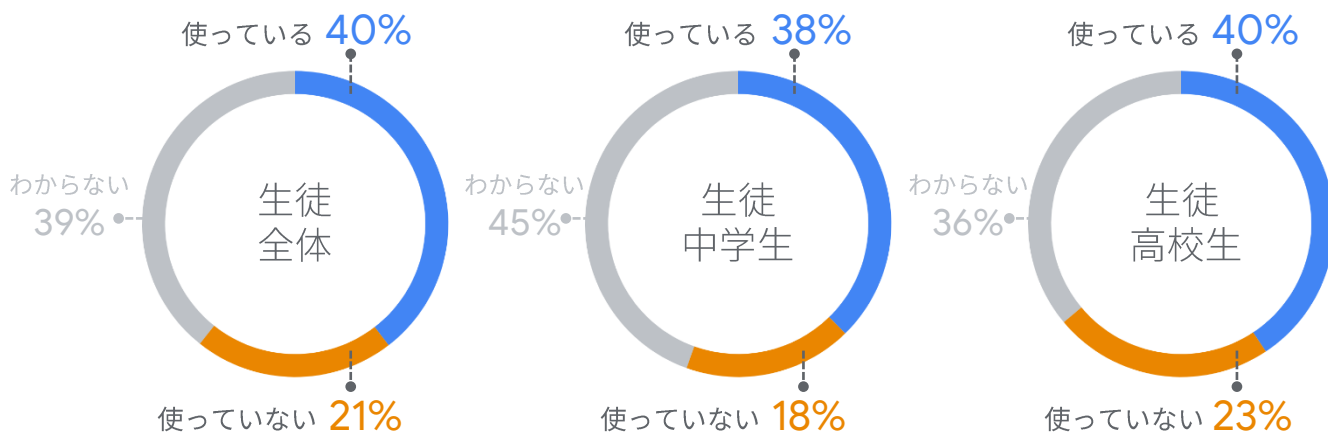
棒グラフ...何かしらのトラブル経験があると回答した生徒。且つ「誰かに相談したりインターネットで解決策を探したり等、何が行動をしたことがありますか？」で「はい」と回答した生徒のうち「トラブルにあった時に行ったことのある解決策」で「あてはある」を選択した生徒の比率。 線グラフ...上記対象のうち、「その対策をした結果、トラブルが解決しましたか？」という設問において、「解決した」を選択した割合

# 生徒のフィルタリング利用状況とその影響

## フィルタリングの使用層と「わからない」層は、それぞれ約40%と同程度

中学生・高校生の合計において、フィルタリングの使用率は40%である。一方で、フィルタリングを使用しているかどうか「わからない」層も39%と、同じくらいの割合であることがわかった。高校生の方が、中学生と比べてフィルタリングの使用率が3pt 微増。一方で、フィルタリングを使用しているかどうか「わからない」層は、9pt 低下している。

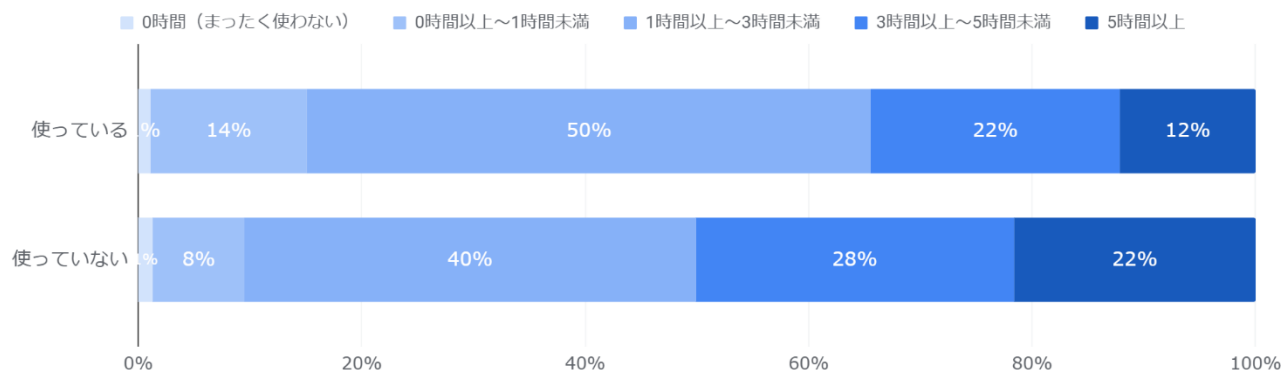
あなたが学校の「授業以外」でインターネットを利用するときに、フィルタリング機能を利用しているかどうか教えてください



## フィルタリング未使用の生徒の方が、インターネットの利用時間が長い傾向にある

フィルタリングの使用有無によってインターネットの利用時間に変化があるかを調べたところ、フィルタリングを「使っていない」層の方がインターネットの利用時間は長くなる傾向にあることがわかった。3時間以上利用する層が16pt 増加している。

フィルタリング機能の利用有無別インターネット利用時間

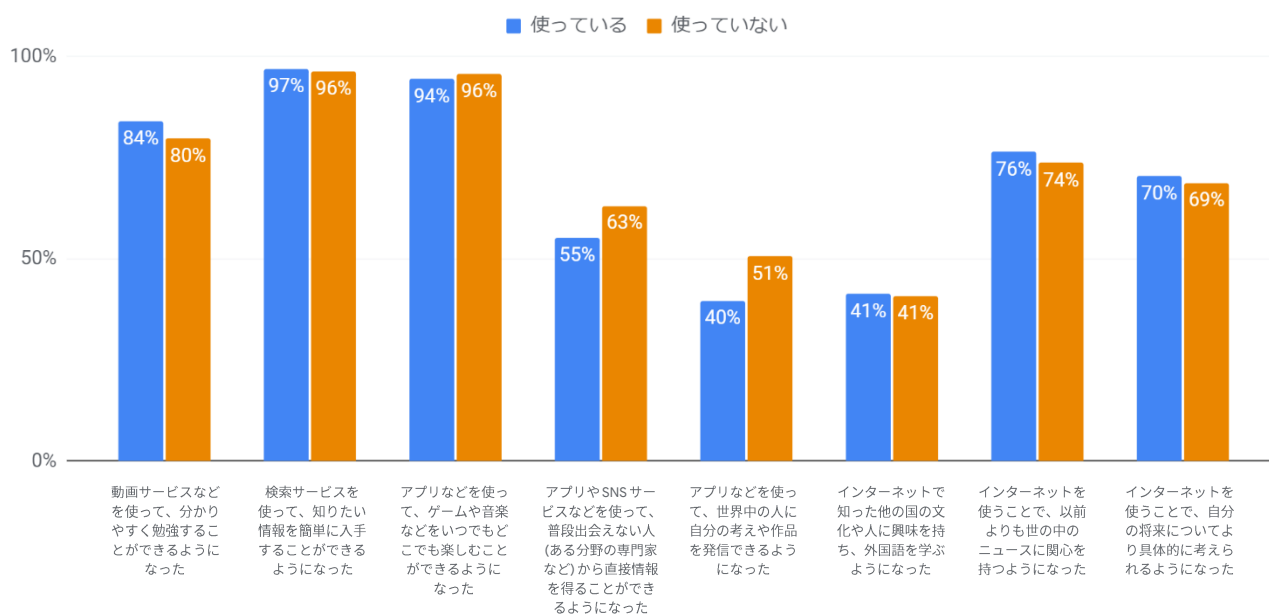


# 生徒のフィルタリング利用状況とその影響

## フィルタリングの有無は、インターネット利用のメリットにそれほど影響していない

フィルタリングの使用有無がもたらすインターネットの利用によるメリットへの影響について、一部を除いてあまり変化はないことがわかった。差分が一番大きいのは「アプリなどを使って、世界中の人に自分の考えや作品を発信できるようになった」という経験で、フィルタリングを「使っていない」生徒のほうが11pt多く感じている。また、「アプリやSNSサービスなどを使って、普段出会えない人（ある分野の専門家など）から直接情報を得ることができるようになった」についても、フィルタリングを「使っていない」生徒の方が8pt多く感じている。

インターネットの活用について、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください

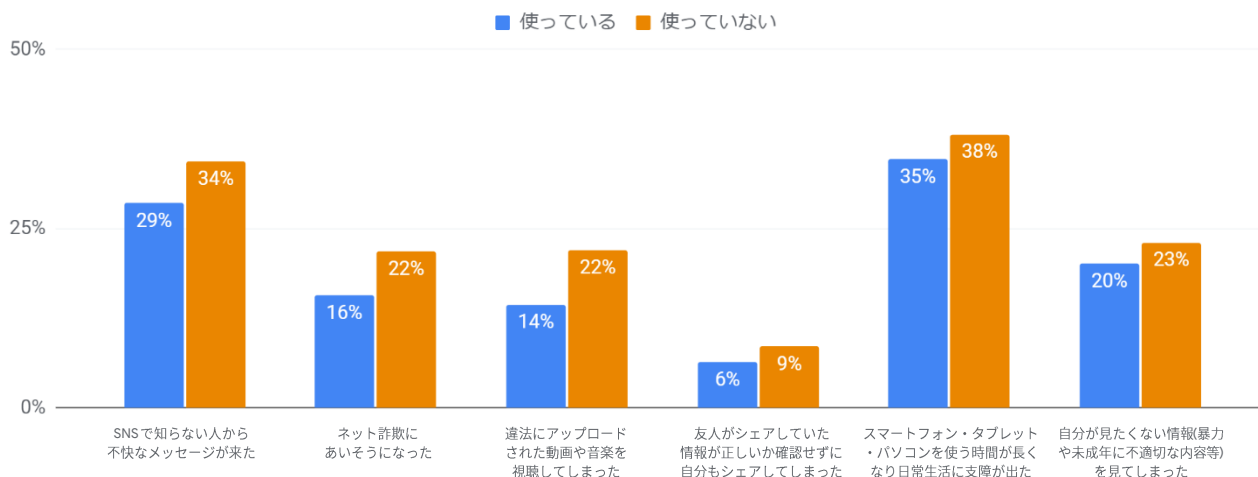


# 生徒のフィルタリング利用状況とその影響

## フィルタリング未使用の生徒の方が、トラブルを経験したことがある割合がわずかに高い

「フィルタリングを使っていない層」の方がすべての選択肢において、各種トラブルを経験したことがある割合が数pt高い数値になっている（平均5ptの差）。差分が一番大きなトラブルは「違法にアップロードされた動画や音楽を視聴してしまった」であり、フィルタリングを使っていない生徒のほうが8pt多く経験している。

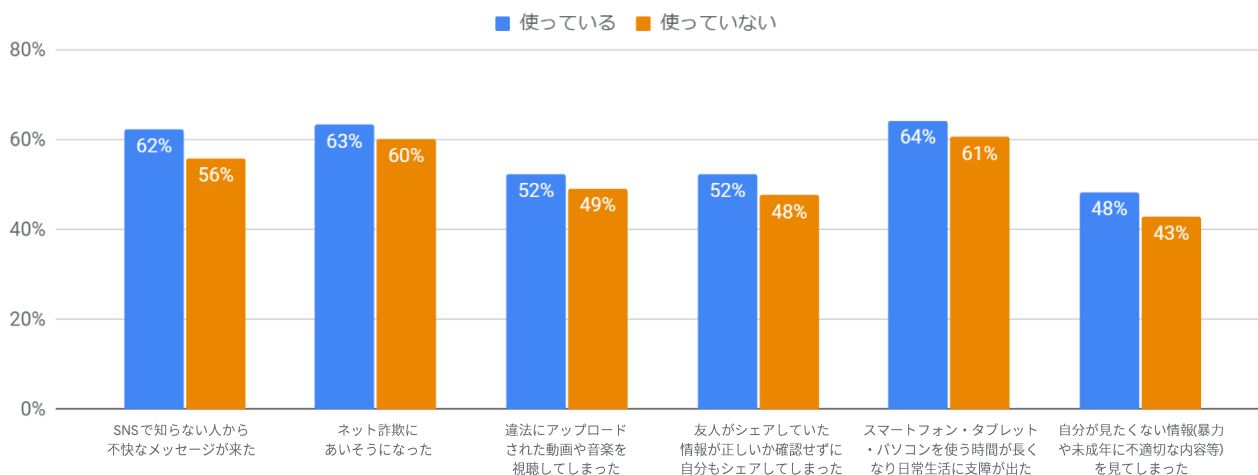
以下のインターネットにおけるトラブルの中から、あなたが経験したことがあるものをすべて選んでください



## フィルタリングの有無が、インターネットの危険性の認識に与える影響はあまりない

フィルタリングの使用の有無は、自分（中高生）にとって危険だと思うトラブルについての認識にあまり影響を与えないことがわかった。ただし、フィルタリングを「使っている」層の方が「使っていない」層と比べて、各種トラブルを危険視している割合が全体的にわずかに高い傾向にある。

以下のインターネットにおけるトラブルの中から、自分たち（中高生）にとって特に危険性が高いと思うものをすべて選んでください

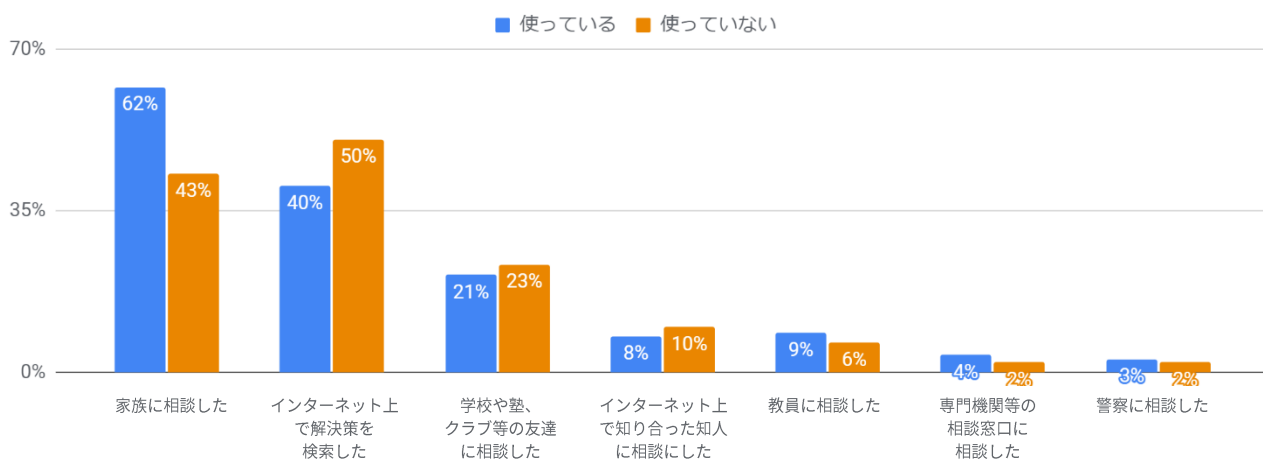


# 生徒のフィルタリング利用状況とその影響

## フィルタリング使用者は「家族に相談する」傾向が高く、未使用者は「インターネット上で検索する」傾向にある

フィルタリングの使用の有無が大きく影響を与えている「インターネットの利用によりトラブルを経験した際の対応方法」は2つ。「家族に相談した」と「インターネット上で解決策を検索した」である。「家族に相談した」を選択する人は、フィルタリングを「使用している層」の方が19pt高い。一方、「インターネット上で解決策を検索した」を選択する人は、フィルタリングを「使用していない」層の方が10pt高いことがわかった。

トラブルにあった時に行ったことのある解決策をすべて選んでください

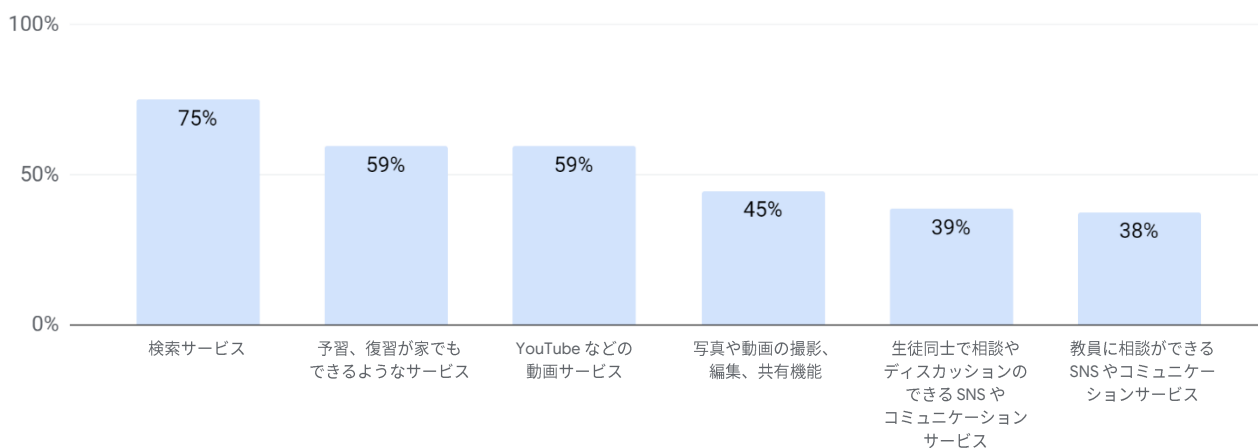


# 生徒が学校の勉強で使いたいインターネットサービス

## 検索サービス・YouTubeなどの動画サービス・予習復習が家でもできるサービスの3つが高い

「検索サービス」は75%、「YouTubeなどの動画サービス」と「予習、復習が家でもできるようなサービス」は、それぞれ59%の生徒が「学校での勉強に使えるとしたら便利」だと思っている。

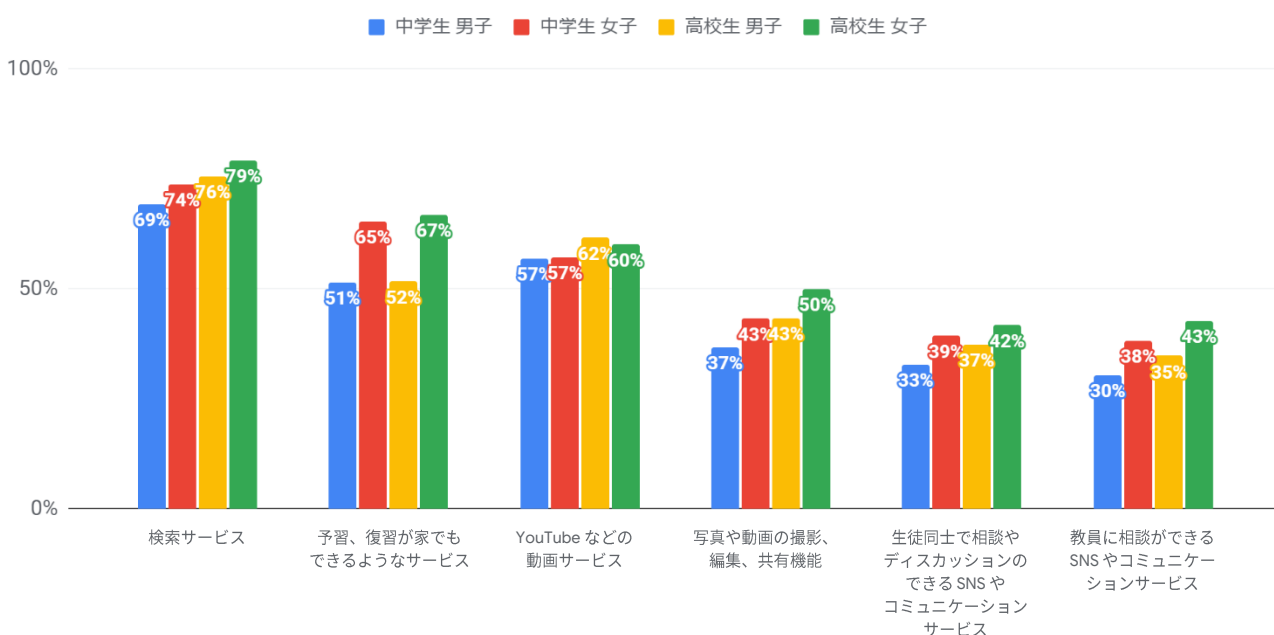
学校での勉強に使えるとしたら便利だと思うインターネットのサービスをすべて選んでください



## 性別・校種による差は軽微だが、「予習、復習が家でもできるようなサービス」のみ、女子のほうが明らかにニーズが高い

校種や性別によって、一部を除き、学校で使いたいインターネットサービスのニーズに大きな差は発生していない。「予習、復習が家でもできるようなサービス」のみ、女子の方がニーズが高く、中学校では14pt、高校では15ptの差が生じている。

学校での勉強に使えるとしたら便利だと思うインターネットのサービスをすべて選んでください





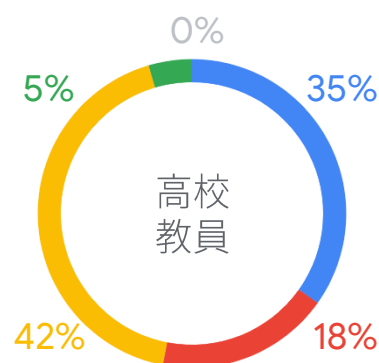
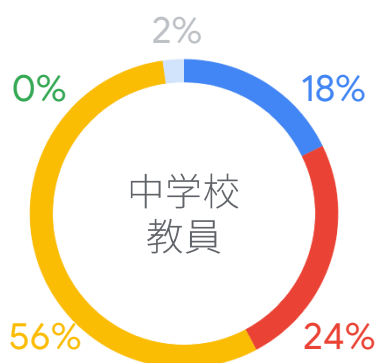
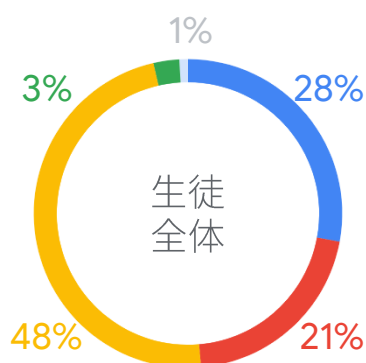
# 先生が考える学校で行うと効果があること

## 教員は「最新のインターネットの状況を反映した教材を利用すること」が重要と考えている

中学・高校を問わず教員は「最新のインターネットの状況を反映した教材を利用すること」がもっとも重要であると考えている。また、高校の教員の方が中学の教員と比べて「インターネットを実際に利用しながら学ぶこと」を重要視しており 17pt 多い。

生徒が「インターネットの安全な活用」をしていく上で、学校で行うと最も効果があると思うことを選んでください

- インターネットを実際に利用しながら学ぶこと
- 最新のインターネットの状況を反映した教材を利用すること
- インターネットの利用を制限すること
- 生徒同士でトラブルを共有したり、注意し合うこと
- すぐに教員に相談できるような場があること



先生が考える学校で行うと効果があること

Google